

三浦小学校の取り組み

地域の方を講師として、保護者ボランティアの方々の協力のもと、児童全員でサツマイモの苗を植えました。

収穫したイモは、JA 山口大島三浦支所のご厚意により、店頭の出産地消費コーナーで販売させていただくことになっています。地域の方々のお力を借りて、教科書からでは学べない多様な体験をすることにより、三浦小学校の子どもたちは大きく育っています。

(校長 内富 徳哉)



▲地域の方のご指導によるサツマイモの苗植えの様子



明新小学校の取り組み

創立130周年を記念して、「世界一大きな絵」を制作しました。

児童・保護者・地域の方々・教職員が思いを込めて描いたこの絵は、地域の人々の心をつないでくれる作品となりました。世界各国の子どもたちの絵とつなぎ合わせられ、45m×70mの巨大な絵となつて、東京ドームや広島島のグリーンアリーナに展示されました。

2020年には東京オリンピックピックアップ会場に展示される予定です。

(校長 大川 幸枝)



▲『大好き 周防大島』一筆一筆にそれぞれの思いを込めて描きました

■問い合わせ 学校教育課 ☎0820(78)2204

四境の役一五〇周年連載コラム⑥

大島商船高等専門学校 准教授 田口由香

▼大島口の戦い—松山藩軍の進攻—

六月七日に四境の役が開戦すると、翌八日には幕府直轄軍と松山藩軍による大島への攻撃が始まります。松山藩を治めた久松松平家は徳川家康の異母弟を藩祖とする家門であり、四国諸藩のなかで松山藩だけが幕府の命に従って大島に進攻しました。

松山藩側の史料(『松山叢談』『愛媛県史』所収)によると、松山藩軍は、五月二十九日から出陣を始め、六月八日の討ち入り命令を受けて七日夜半に興居島を出帆し、八日の明け方に大島まで押し寄せました。手始めに油宇村を攻撃したところ「敵兵」(長州藩兵)が逃げ去ったので上陸し、伊保田村を探索したところ「敵兵」が見当たらないので村民に「御告文」の内容を言い聞かせ、それから家室・安下庄を試し打ちしたところ「敵兵」はおらず、暮れになったのでひとまず津和地島まで引き上げたとあります。

同日の状況を伝える長州藩側の史料には、油宇・伊保田に沖合から砲撃があり、「婦人親子」が「即死」



▲興居島 (松山市)

し、上陸して人家にも乱入した(『村上河内変動中日記』(『山口県史』所収)、油宇村に上陸した松山藩軍が何か「告布書」を村民に渡したが、村民は「憤怒」して取り集めて焼いたとあり、大島の人々が実際に被害を受けていたこと、また、従わせようとする松山藩軍に人々が抵抗した様子を伺うことができず(『四境戦争一事』『山口県史』所収)。

◎次回は「大島口の戦い—幕府直轄軍の進攻—」についてです。